

一月よみとりおけいこ⑧（低）

名まえ（）

今年の干支は牛さんです。

六十年ほどまえまで京と市内にもたくさん牛がいました。牛はトラクターのかわりをしていましたからです。たがやす時はすきをつけて、ならす時はまぐわをつけて、たらきました。お百姓さんは、夕ぐれになると、自分の牛を近くの川につれて行き、わらのブラシできれいにしてあげました。そして、玄関を一しおにくぐったのです。

牛かいさんは自分の家のほかに牛小屋をもっています

が、お百姓さんはふつう一頭の牛を大切にしていました。牛小屋よりも、目のいきとどく、母屋の入り口近くに、牛のへやをもうけて、一つやねのの下で牛とくらしたのです。

牛のえさはあたりの草です。むかしはあちこちに牛のえさになる草がありました。冬用のほし草もかりとつてやねうらやなやにためてありました。

牛のふんはすばらしいひりようになりました。牛小屋をそうじする時に外に出して、また畑や田んぼに返します。江戸時代は牛のにくはたべませんでした。ぶつきようではころしてはいけないからです。（ただ、薬食いとよんでも、こつそりたべることもありました。彦根藩では近江牛のみそづけを徳川のとのさまにさしあげていたといいます。）

牛のほねをぐつぐつにてとつた「にかわ」というものは日本画のえのぐをつかうときや、なにかをくつつけるときやじょうぶにするときにつかわれました。

日本人はなにかと牛のおかげでくらしてきました。音どくサイン→

①なんのはなしでしよう？

②牛は今の機械でいうとなにのかわりをしていましたですか？

③たがやすときに牛につけるものはなんですか？

④夕方、お百姓さんは牛をどこにつれて行つたのですか？

⑤④はなんのためですか？

⑥なぜむかしのお百姓さんは家の中で牛をかつてていたのですか？

⑦牛のふんはなにつかされましたか？

⑧むかしなぜ焼肉屋さんがなかつたのですか？

⑨あつてているものに○をつけましょう。

（ ）江戸のとのさまは肉はたべなかつた。

（ ）牛のほねもやくに立つた。

（ ）牛は夕方、お百姓さんを川であらつた。

⑩おもつたことを五行でまとめましょう。

できばえは？

